

お役に立ちますSMT

ファスナー品質法認定試験所 のご紹介

品質証明試験のことなら、SMTにお任せください

技術水準の高さが米国と日本で審査認定されています。

米国はファスナー（ボルト、ナット、ワッシャー等の締結部品）の販売の際、その品質証明は一定技術水準以上を有する試験所で行うことを法律で義務づけました。

一定技術水準以上であることの認定は、米国商務省傘下の技術・標準局（NIST）またはNISTが認定した審査認定機関が行います。わが国ではNISTの認定を取得した財適合性認定協会（JAB）が審査認定を行い、この認定は米国での認定と同等と認められます。認定の基準は米国の法令で定められており、その基本的な考え方は国際標準化機構（ISO）と国際電気標準会議（IEC）の規格（ISO/IEC Guide 25）に基づいています。この規格はわが国でもJIS Z 9325として規格化されています。

この規格の内容は品質システム規格と技術水準規格からなり、試験所はISO 9002の要求と同等の品質システムと、当然ながら高い技術水準が要求されています。

技術水準の要求は「不確かさ」と「技能試験」に代表され、必要なとき試験結果には国際的に同じ考え方で計算した土の不確かさを付すこと、試験員の技能は他試験所と同等水準にあることを確認しておくことが要求され



ています。
当社は化学成分の分析に関して小倉事業部がNISTから、和歌山事業部がJABから高い技術水準にあることを審査認定されています。



話題 TOPICS 題

昇温式水素分析装置

鉄鋼材料の高強度化に伴い、遅れ破壊がクローズアップされています。ここで遅れ破壊とは、材料がある時間経過後に、突然脆性的に破壊する現象であり、水素による材質劣化の一形態です。そこで、遅れ破壊の調査においては鋼中水素量の測定が不可欠となり、しかも最近の研究から、鋼中水素の中でも、比較的低温（約300℃以下）で放出される「拡散性水素」が重要な影響を及ぼすと言われています。

弊社小倉事業部では、従来の分析方法（例、加熱抽出ーガスクロマトグラフ法）では測定できなかった拡散性水素の測定を可能とする昇温式水素分析装置を導入し、遅れ破壊の原因究明、対策立案のお役に立てるようになりました。



昇温式水素分析装置の特徴

真空雰囲気にて、一定の昇温速度で試験片を加熱し、各温度で放出される水素量を、四重極質量分析器で測定します。

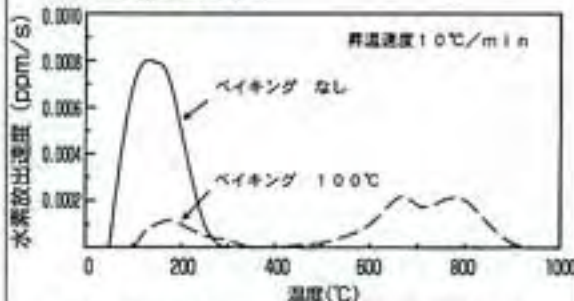


図1 ベーキング温度による水素放出曲線の変化

測定結果例

メッキ品のベーキングによる水素低減効果の測定例を図1に示しますが、300℃以下で放出される拡散性水素量が、著しく低減していることがわかります。

●担当者メッセージ欄

部/事業所/ラボラトリー

TEL

FAX